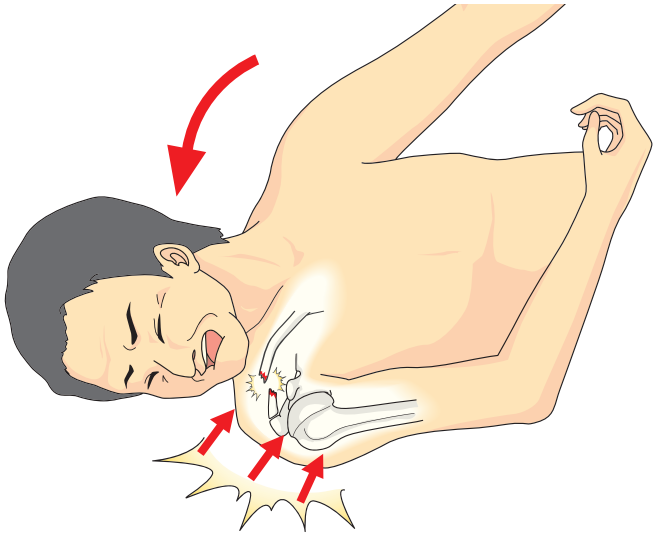
骨と関節をイメージした
整形外科アピールマーク

鎖骨骨折（さこつこっせつ）

「運動器の健康」世界運動
動く喜び 動ける幸せ

症 状

転倒や転落などして肩や腕に衝撃が加わった後、肩に痛みや腫れがあり腕を上げることができない場合に、この骨折を疑います。折れる瞬間にボキッという音を聞く人もいます。ずれが大きいと外観からも骨折を確認することができます。交通事故などで大きな外力が加わった場合には、骨折だけでなく神経も損傷を受けて、手や指がしびれたり動かせなくなることもあります。



診 断

単純Ｘ線（レントゲン）で診断を行います。骨折のずれが小さかったり、鎖骨の外側の骨折では見逃される事もあり、専門医による診察やＸ線検査を受ける事をお勧めします。
特に小児の場合、腕を動かさなくなった時、実は鎖骨骨折ということがありますので注意を要します。

鎖骨骨折の単純X線像

長生きを支える、足腰づくり。
ロコモ チャレンジ!

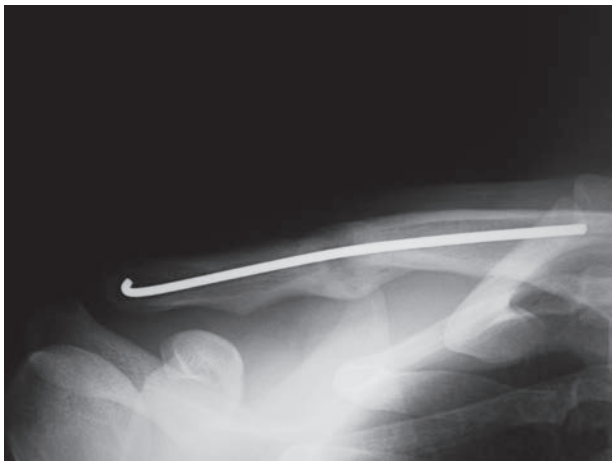
治療

治療はまず胸を張るように骨折部のズレを整復した後に鎖骨バンドなどによって固定が行われます。鎖骨バンドには、後ろで止めるタイプと前で止めるタイプとがあります。

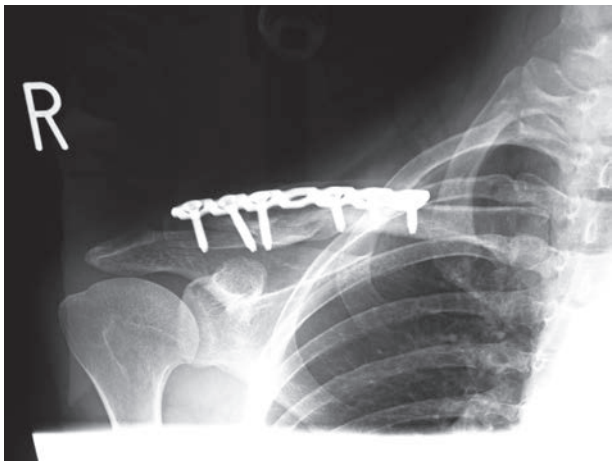
後ろ止めバンド

前止めバンド

骨折部のズレが大きかったり、骨が外に飛び出すような開放骨折や鎖骨の下にある神経や血管が傷ついているような場合は手術が行われます。手術には、鎖骨の中に鋼線を入れて固定する方法（髄内釘固定）や金属の板を鎖骨にあてて螺子で固定する方法（プレート固定）などがあります。手術をしてもしなくても骨癒合（骨がつくこと）までには最低４～12週を要します。バンドで固定していても経過によって骨癒合が悪い場合には手術になる場合もあります。この場合、骨盤から骨を採って鎖骨の骨折部に移植することもあります。骨折の治りが悪い場合に、状態によっては超音波や電気刺激などを行い、骨癒合する場合があります。骨癒合した後、肩が回らない場合にはリハビリも必要となります。但し骨癒合の具合でリハビリも変わってくるので始める時期や方法など詳細は主治医の指示に従って下さい。



髄内釘固定した単純X線像



プレート固定した単純X線像

企画・制作
公益社団法人日本整形外科学会

制作協力
エーザイ株式会社

MO1012CKA
2025年2月作成